

平成28年度 研究発表中間報告

研究テーマ 「アクティブ・ラーニングによる学習意欲の向上」

助言者 長沼 康成 主任指導主事

(福岡県教育センター 教科教育班)

発表者 春田 真伍 教諭 (田川高校)

司会者 前山 太志 教諭 (西田川高校)

記録者 小川 貴大 常勤講師 (田川科学技術高校)

1 研究体制について

春田 真伍（田川高校）、前山 太志（西田川高校）、

小川 貴大（田川科学技術高校）、真保栄 俊（東鷹高校）の4名で

アクティブラーニングによって学習意欲を向上させるための方策を探る。

2 研究テーマについて

今回は田川地区4校の共通課題「主体的に学習に取り組む生徒が少ないこと」をアクティブラーニングで解消するべく研究する。生徒が活動する場を多くすることで、学習意欲の向上を図る。また、今後各学校でアクティブラーニングに取り組む際の課題を見つけることも目的としている。

3 研究方法について

○田川地区4校で、それぞれ学校の特色に応じたアクティブラーニングを行う。

○筑豊地区の生徒に、学習意欲を調査するアンケートを実施する。

○各学校でアクティブラーニング前後の生徒アンケートを比較検証し、学習意欲の変化を調査

する。(第1回は調査済み)

4 協議

(問) アンケートの調査内容、人数に妥当性がないのでは。

(答) 2回目のアンケートの内容、方法を検討し直す。

(問) 学習意欲の向上は、どのようにして図るのか。

(答) 持ち帰り、筑豊地区研修部で検討する。

5 指導助言

○アンケートの調査項目は統一したほうがよい。

○生徒に成功体験を積ませるだけでなく、物事の有意性を認識させる工夫を。

○アクティブラーニングを「個」の教員の取り組みでなく、「集団」の取り組みとなる方法を

探ること。

○生徒の学習意欲の向上をどんなアンケート内容で測るのかを練るべきである。

6 今後の課題

○田川地区4校だけでなく、筑豊地区全体の研究となるようにしていく。

○アンケートの調査対象を広げ、研究対象の人数を増やす。

○研修部で内容を研究内容やアンケートを再検討し、最終提案に結びつける。